



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2021 October to December, vol.212



京都国立博物館

だより

二〇二一年
一〇・一一・一二月号



特別展

畠山記念館の名品

— 能楽から茶の湯、
そして琳派 —

予告

特集展示

新収品展

新春特集展示

寅づくし

— 干支を愛でる —

【特別展】

畠山記念館の名品

— 能楽から茶の湯、そして琳派 —

10月9日(土)～12月5日(日)【平成知新館】

前期展示：10月9日(土)～11月7日(日)

後期展示：11月9日(火)～12月5日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替えを行います。

畠山記念館は、昭和三十九年（一九六四）、株式会社荏原製作所の創業者である畠山一清（一八八〇～一九七二）によって東京・白金台の閑静な地に開館しました。事業のかたわら、即翁と号して能楽と茶の湯を嗜む数寄者でもあった彼は、長年にわたり熱心に美術品の蒐集に努めました。そのコレクションは、茶道具を中心に日本、中国、朝鮮半島の古美術品で、国宝六件、重要文化財三十三件を含む約一三〇〇件にも及びます。

本展は、施設改築工事のため休館している畠山記念館のコレクションを、関西の地において初めて、一堂で紹介する展覧会です。

即翁の審美眼と美意識に触れ、彼が愛した茶の湯をはじめとする日本の伝統文化を、末永く伝えていきたいという思いを共有する機会となれば幸いです。
（降矢哲男）

第一章 蒐集の始まりと金沢

即翁は、加賀藩前田家の城下町として栄えた金沢に生まれました。大学卒業後、技術者として経験を積み、ポンプの設計製作にかかわる事業を営むかたわら、数寄者として活躍するようになりますが、その蒐集の始まりは、大正四年（一九一五）に購入した古九谷のやきものでした。

古九谷は大正時代に人気があった作品ですが、郷里・金沢に縁のあるものでもありました。ここでは、即翁の金沢への想いが感じられる、初期の蒐集品と金沢ゆかりの作品をご紹介します。

第二章 能楽―美意識の支柱

明治の世となり、もはや演能が必須ではなくなった大名家のコレクションが処分されるようになると、能をたしなむ業界の紳士たちが能楽の新たな支援者となりました。そうした支援者のひとりであった即翁は、ふるさと加賀藩に伝来した能装束を積極的に蒐集し、自らの演能にも着用しました。物語や伝説、社寺の縁起などを下敷きとする謡には、宗教や文学、さらには地誌に至るまで、日本文化の核が埋め込まれています。謡い舞うことによって自らの内に取り込まれた能楽は、即翁の美意識の支柱でもありました。

第三章 名品との出会い 茶の湯とのつながり

数寄者として茶の湯を実践した即翁は、名品茶道具の蒐集に熱意を傾けました。將軍家や天下人と呼ばれる戦国武将たちが所持した井戸茶碗や唐物茶入、だれもが認める名画や墨蹟の名品を集める一方で、即翁自身の審美眼に従い、大胆な筆致の書である「離洛帖」や、破格ともいえる造形の「割高台茶碗」「志野水指 銘 古岸」といった個人的な作品も蒐集しています。

また、数寄者として名高い益田鈍翁から茶を点ててもらったことがあった即翁は、鈍翁から言われた一言に大きく感銘を受け、以来鈍翁をはじめ、厚三溪といった近代数寄者たちにゆかりのある品も入手していくことになりました。

第四章 琳派

畠山記念館には、「四季草花下絵古今集和歌巻」をはじめ、優れた琳派作品が数多く所蔵されており、同館のコレクションを特徴づける要素の一つとなっています。個々の作品の質の高さもさることながら、「系統的」であることを意図して蒐集されたらしいことも見逃せません。

本阿弥光悦・俵屋宗達に始まり、尾形光琳・乾山、さらに酒井抱一・鈴木其「らへと続く日本美術史上の一大流派であるという今日の「琳派」観は、明治末から大正、昭和にかけて発展してきた概念です。

即翁による系統的な琳派作品蒐集は、近代以降における「琳派」という概念の形成過程と重なりつつ展開していたと言えるでしょう。

第五章 與衆愛玩の想い

「與衆愛玩」とは、数寄者が蒐集品を独占するのではなく、多くの愛好家とともに楽しむとする精神を表す言葉であり、即翁所蔵の茶道具の愛蔵印「即翁與衆愛玩」を典拠としています。即翁はこの言葉を実践するために畠山記念館を設立しました。

美術館設立を決意してからの即翁は、茶道具コレクションに加え、中国鑑賞陶磁の「青花龍濤文天球瓶」など、世界に冠たる美術品を購入しています。幅広い層、特に若い人たちにコレクションを観てほしいと考えた即翁は、茶道具だけにこだわらず、より美術館展示に向くと考えた作品もコレクションに加えていきました。

第六章 畠山即翁と茶の湯

即翁は、大正時代末頃から晩年の約四十年間にわたって茶の湯を楽しむ、実践しました。なかでも懐石へのこだわりは強く、献立から器選び、味付けに至るまで自身で目を通すという徹底ぶりでした。

茶人に欠かせぬ歳時記の一つ、本阿弥光悦の遺徳をしのぶ東西の大茶会、光悦会、大師会でも見事な道具組を披露しています。昭和九年（一九三四）の光悦会では「備前火襷水指」、昭和十二年（一九三七）の大師会では南楚師説筆「墨蹟（送別語）」、「井戸茶碗 銘 信長」などをはじめとした名品を用い、豪華な取り合わせを行いました。

ここでは、茶の湯の実践者として一期一会を紡いできた茶事を、道具の取り合せによって再現します。



向日葵 鈴木其一筆（前期展示）



重要文化財 四季草花下絵古今集和歌巻（部分） 本阿弥光悦書 俵屋宗達下絵（後期展示）



重要文化財 墨蹟（「孤桂」道号） 宗峰妙超筆（前期展示）



国宝 煙寺晚鐘図 伝 牧鉛筆（後期展示）



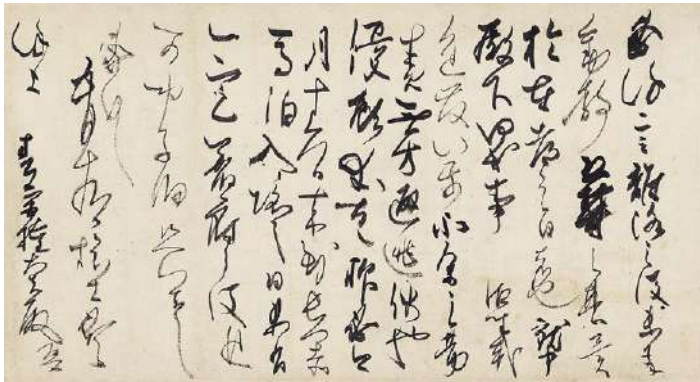
面 翁（白色耐） 伝 福来作（前期展示）



段替に唐花根世文様厚板唐織 前田家伝来（前期展示）



重要文化財 清瀨権現像（前期展示）



国宝 離洛帖 藤原佐理筆（前期展示）



重要文化財 瀾瀾図 尾形光琳筆（前期展示）



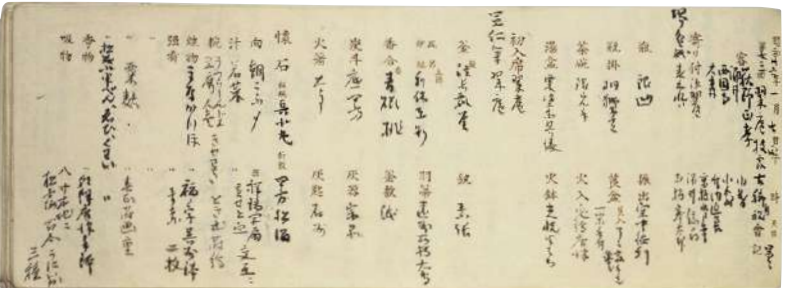
重要文化財 赤染茶碗 銘 雪峯 本阿弥光悦作（通期展示）



重要文化財 唐物肩衝茶入 銘 油屋（通期展示）



重要文化財 志野水指 銘 古岸（通期展示）



茶会日記・茶会日記 畠山一清筆（通期展示）



国宝 螺牡丹時繪螺鈿手箱（前期展示）



重要文化財 銘 からのたち 青花龍濤文天球瓶（通期展示）



重要文化財 伊賀花入（通期展示）



「唐物肩衝茶入 銘 油屋」の笥櫃、仕覆、添状など付属品（通期展示）

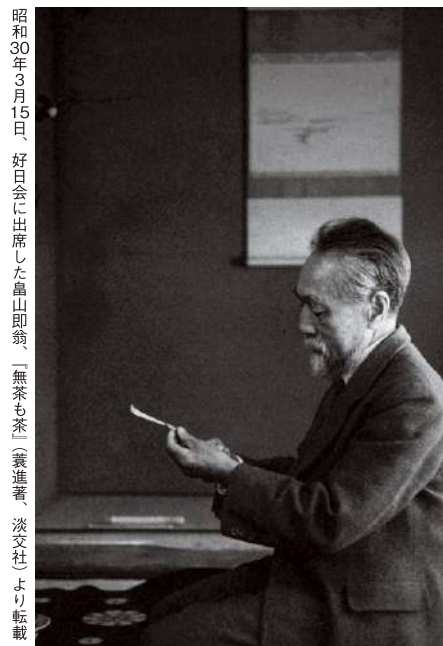
畠山記念館とは

東京・港区白金台の閑静な住宅街に建つ畠山記念館。ここは創設者の畠山一清が五十年かけて集めた東洋の古美術品を中心に収蔵、展示公開する美術館です。

一清は能登国主畠山氏の後裔で金沢生まれの実業家。事業のかたわら、能楽と茶の湯を嗜み、美術品の蒐集に努めました。



畠山記念館 外観



昭和30年5月15日、好日会に出席した畠山即翁（能楽も茶（義進齋） 淡交社より転載）

※掲載作品はすべて、畠山記念館蔵

〈予告〉「特集展示」 新収品展

令和4年1月2日(日)～2月6日(日)
〔平成知新館 1F-3〕5

京都国立博物館では展示や研究に活用するために、美術品や文化財を計画的に購入しています。また個人や団体の御厚意によって作品を寄贈いただくことがあります。今回の新収品展では令和元年度から二年度にかけて当館が新たに収集した様々な分野の作品約三十件を展示いたします。

「百犬図」(写真1)は江戸時代・十八世紀の有名な画家・伊藤若冲の晩年の大作です。たくさんの子犬たちが画面いっぱい可愛くじゃれあっています。絵画ファンには見逃せない逸品です。「法花蓮池水禽図壺」(写真2)は、中国・明代、十五～十六世紀の色絵磁器と呼ばれるやきもので、そのデザインや技法はのちの日本の京焼に大きな影響を与えました。

ほかにも平安時代の「法華経冊子」(重要文化財)(写真3)や、江戸時代の徳川家光筆「臬図」などを展示いたします。

(宮川禎一)



(写真1) 百犬図 伊藤若冲筆 京都国立博物館



(写真2)
法花蓮池水禽図壺 京都国立博物館



(写真3)
重要文化財 法華経冊子
京都国立博物館



1月からの
平成知新館 名品ギャラリー

3F-1 陶磁
【日本と東洋のやきもの】

令和4年1月2日(日)～3月13日(日)

※3月15日(火)～21日(月・祝)は閉室

3F-2 考古

【特別公開 四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産―辰砂と鉄―】

令和4年1月2日(日)～3月13日(日)

※3月15日(火)～21日(月・祝)は閉室

2F-1-3

【新春特集展示 寅づくし―千支を愛でる―】

令和4年1月2日(日)～2月13日(日)

2F-4 近世絵画

【盛者必衰―『平家物語』と源平の合戦―】

令和4年1月2日(日)～2月13日(日)

2F-5 中国絵画

【清時代の絵画】

令和4年1月2日(日)～2月13日(日)

1F-1 彫刻

【四天王と毘沙門天】

令和4年1月2日(日)～3月21日(月・祝)

1F-2

【特集展示 後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳―】

令和4年1月2日(日)～2月13日(日)

1F-3-5

【特集展示 新収品展】

令和4年1月2日(日)～2月6日(日)

1F-6 漆工

【中国と琉球の漆芸】

令和4年1月2日(日)～2月6日(日)

〈予告〉【新春特集展示】

寅づくし

「干支を愛でる」

令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
【平成知新館 2F-11～13】



青銅虎符 京都国立博物館



猛虎図 伝李公麟筆 京都・正伝寺

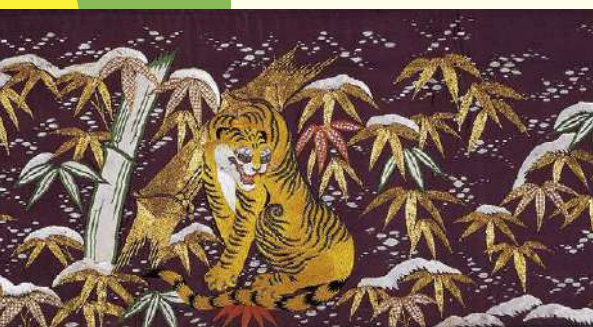
来年の干支は寅(虎)です。
みなさんは、虎にどんなイメージを持っていますか？
野生の虎は日本にはいません。昔から、毛皮が輸入されたり、ごくまれに生きた虎が中国や朝鮮半島から連れて来られたりしましたが、江戸時代の終わり頃になるまで、多くの日本人にとって虎は、実際には見ることでできない、絵やお話の中の生き物だったのです。獠猛で神聖な動物と考えられた虎は、魔よけのために描かれました。一方で、誰かの強さや立派さを表すために、おとなしく懐いた姿で描かれることもあります。虎のいなかった日本では、猫のように可愛らしい姿でも表現されました。

日本をはじめとするアジアの人々は、虎にどんな思いを込めて美術に表したのでしょうか。展示室で様々な表情を見せる虎たちの中に、ぜひあなたのお気に入りを見つけてください。(水谷亜希)

「こんどの「干支を愛でる」はファミリー向け！」

やさしい解説文(小学校高学年)

作品を見るのが楽しくなるワークシート(小学校低学年)あります！



竹に虎文様掛下帯(部分) 京都国立博物館



竹虎図 尾形光琳筆 京都国立博物館

ミュージアムパートナー一覧

※令和3年9月末現在
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【ゴールド】

三州ペイント株式会社
土屋和之

株式会社SOFTMIZホールディングス

株式会社 俄

NSSEHA株式会社

【シルバー】

有限会社 竹内美術店

学校法人 二本松学院

「キャンパスメンバーズ」一覧

※令和3年9月末現在

会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様に、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などをさまざまな特典を提供しています。詳細はウェブサイトをご確認ください。

学校法人 瓜生山学園 / 国立大学法人 大阪大学

大阪大谷大学 / 大谷大学 / 大手前大学

学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院

国立大学法人 京都大学

学校法人 京都外国語大学 / 京都工芸繊維大学

学校法人 京都産業大学 / 学校法人 京都女子学園

京都市立芸術大学 / 京都精華大学

京都橘大学 / 京都府立大学 / 近畿大学

国立大学法人 滋賀大学 / 四天王寺大学

就実大学 / 成安造形大学 / 学校法人 大覚寺学園

帝塚山大学 / 学校法人 同志社

奈良大学 / 奈良女子大学

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

学校法人 二本松学院 / 花園大学 / 佛教大学

学校法人 立命館 / 龍谷大学

【寄附】

京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の1000年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。

このたび、左記より寄附をいただきました。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

TABIZURU FOUNDATION

「鑑真和上と戒律のあゆみ」展によせて

「鑑真和上が京都へいらっしやる！」(もちろん、ご本人ではなくて、唐招提寺蔵・国宝鑑真和上坐像。)そう聞いて、展覧会(二〇二二年三月二十七日～五月十六日)開催前から待ちきれない日々を過ごした、鑑真和上ファンは私だけではないでしょう。寺外での公開は十二年ぶり、京都国立博物館では四十五年ぶり、私にとっては京の都での和上像との再会の機会でした。

会場の中程、かつての出家者が瞑想した禅室か洞窟を想起させる薄暗い展示室がありました。そこには鑑真和上坐像や興正菩薩(観尊)坐像「前期・白毫寺蔵/後期・西大寺蔵」が配されていました。後世の観尊(二二〇一～二二九〇)らに相承された、「出家者かくあるべし！」という鑑真和上(六八八～七六三)からの教えが、時を超えて、確かに受け継がれた様を眼前にしているかのようでした。高僧像に囲まれ、空気までもが凜とした空間にその身を置いた時、スッと背筋を伸ばさずには居られない、自分の邪心を見透かさされ懺悔せずには居られない、そんな心持ちになったことを思い出します。

今回の展覧会について、私は「戒と律とは何か?」「唐の名僧鑑真によって日本にもたらされた仏教僧の育成システムと仏教僧の在り方。そしてそれが、如何に継承されたか」、このことに注目して拝見しました。この点においては、五回もの渡航失敗という艱難辛苦を乗り越え来日した鑑真、唐招提寺の中興の祖とされる覚盛(一一九四～一二四九)、西大寺を拠点とした観尊、東大寺で戒律研究を行った凝然(一二四〇～一三二二)、南宋から当時最先端の律研究とそれに基づいた儀礼を持ち帰った泉涌寺の俊苒(一一六六～一二二七)らを中心に据え、紹介されています。そのうち、実際に鑑真が着用した袈裟(唐招提寺蔵)だけでも、「出家者が身につける衣(僧衣)」と、「教えの継承(法脈)」についての厳格な伝統をうかがい知ることができました。また、和上が依拠した『四分律』はもともと、法蔵部という僧団が伝持した生活規則の集成で、四一〇～四二二年に漢訳され、唐の律師道宣(五九六～六六七)はこれに基づき多くの解説書を残しました。



龍谷大学 龍谷ミュージアム 岩田朋子

さらに、凝然の撰述で自筆ともいわれる「優波離唄」は、釈尊の直弟子のうち持律第一(律の第一人者)といわれた優波離(ウパーリ)を讃えた偈頌とその楽譜で、実際の布薩(規則に違反していないか確認するため十五日毎に開催される反省会)などに用いられていたようです。そこには、「諸仏・法(教え)・僧(サンガ、僧団)に敬礼します。ここにヴィナヤ(律)を誦出して、正法を久住させ、優波離を中心として、戒の要義を説くこととします。諸々の僧たちよ、みなこれを聴きなさい」と、釈尊の法を世間に伝える仏教僧に対して、正しく在ることを促しつつ、それを維持することの重要性が明示されます。ここで言及される優波離は、釈尊の涅槃直後に行われた仏典編纂会議(結集)において、僧団規則の責任者といわれています。

これらの作品からは、当時の日本において、律蔵に基づいた正しい仏教僧の在り方を、常に問い続けていた凝然の意気込みと真摯な姿勢がありありと伝わってくるようです。

そして、涅槃図や十六羅漢像など諸寺院に伝えられている宝物には、礼拝対象としての機能だけでなく、理想の仏教僧を再認識するための仕掛けが施されていたのだと考えます。そうした先人らの日々の積み重ねを、数々の記録や作品を通して感じられる様に、と様々に思案されたご担当者の苦勞が偲ばれました。

戒とは「出家者を出家者たらしめる個人向けの生活規則」であり、律とは「出家者の集団規則に関する規定」のことで、それらを纏めたものが律蔵です。本来、仏教僧、あるいは仏教僧団の秩序が保たれていれば規則さえも必要ありません。しかし現実には、律蔵はまとまったものだけで、六種ものシリーズが現存しています。このことは僧団内で種々のトラブルが起こり、僧団運営の理想に現実が追いつくことは困難であったことを示唆します。そのような現実の中にあっても、仏教僧は、環境を整え自らと向き合い、心を整えて、正しく思考する智慧を得るために励みましました。時代を超えて、地域を越えて、仏教僧が在るべき姿を追い求めた高僧たちの物語が、展示室を彩っていました。

【ご来館くださる皆様へ】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みを行っています。安心して博物館をお楽しみいただける環境維持のため、マスクの着用、検温など、皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

講座・イベント

《特別展「畠山記念館の名品」記念講演会》

10月9日(土)「共に楽しむ茶の美術館

—畠山コレクション誕生の背景とその魅力—
畠山記念館学芸課長 水田至摩子

10月23日(土)「近代の紳士能と大名家旧蔵能装束

—加賀藩前田家伝来品をめぐって—
京都国立博物館工芸室長/企画室長 山川 暁

11月6日(土)「近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁」

京都国立博物館主任研究員 福士雄也

11月20日(土)「與衆愛玩—即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友—」

京都国立博物館主任研究員 降矢哲男

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員100名、聴講無料(ただし、講演会当日の「聴講券付き日時指定観覧セット券」が必要。ローソクチケットにて、「聴講券付き日時指定観覧セット券」をご購入ください。無料対象の方も、「聴講券付き無料日時指定観覧セット券」が必要)。

※キャンパスメンバーズ割引対象の聴講券付き日時指定観覧セット券はありません。上記いづれかのセット券をお求めください。

《特別展「畠山記念館の名品」キャンパスメンバーズ講演会》

講 師：降矢哲男(京都国立博物館主任研究員)

日 時：10月14日(木) 15～16時

会 場：平成知新館 講堂

参加方法：10月12日(火)までにウェブサイトよりお申し込みください。定員になり次第、受付を終了します。

https://www.kyohaku.go.jp/jp/event/etc/20211014_campus-lec.html

これからの展覧会

◆特集展示 新収品展

令和4年(2022)1月2日(日)～2月6日(日)

◆新春特集展示 寅づくし—干支を愛でる—

令和4年(2022)1月2日(日)～2月13日(日)

◆特集展示 後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳—

令和4年(2022)1月2日(日)～2月13日(日)

◆特集展示 雛まつりと人形

令和4年(2022)2月19日(土)～3月21日(月・祝)

新型コロナウイルス感染症予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいようお願いいたします。

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：9月14日(火)～10月7日(木)
12月7日(火)～12月26日(日)

※名品ギャラリー休止期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<9月14日～10月7日> 9:30～17:00

<10月9日～12月5日> 9:00～17:30

<12月7日～12月26日> 9:30～17:00

※入館は各開館の30分前まで ※夜間開館は実施しません

【観覧料】 【庭園のみ開館期間】

<9月14日～10月7日><12月7日～12月26日>

一般 300円、大学生 150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者

とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がございます。

【特別展「畠山記念館の名品」

<10月9日～12月5日>

*本展は事前予約く優先制>です。ご来館前に「日時指定観覧券」をローソクチケットにてご購入くださいようお願い

申し上げます。館内の混雑緩和のため、「日時指定観覧券」

をご提示のお客様から優先して展示室へご案内いたします。

一般 1800円、大学生 1200円、高校生 700円

*中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料(要証明)。

【日時指定観覧券】は不要ですが、学生証、障害者手帳などを

ご提示ください。(未就学児は除く)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は、「キャンパスメンバーズ日時

指定観覧券」をご購入ください。ご来館の際には、学生証など

をご提示ください。

*予約不要の「当日観覧券」を博物館入口にて販売いたします

(ご入館いただける直近の時間帯にてご案内します)。

*団体券はありません。

*詳細は展覧会公式サイト(<https://hatakeyama2021.jp>)を

ご覧ください。

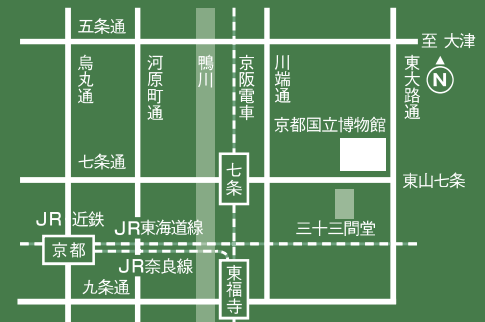
*特別展期間中、名品ギャラリー(平常展示)は休止となります。

【休館日】月曜日、10月8日(金)、
12月27日(月)～令和4年1月1日(土・祝)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD1のりばより100号系統、D2のりばより206・208号系統、にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大坂方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*[博物館だより]を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2021年10月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

